

超DS宣言～自分を超えろ!

静岡新聞は創刊75周年を機に「超DS」と銘打ったキャンペーンを展開。「これまでを越えろ」を合言葉に、静岡の皆さんが次のステージへと大きな一歩を踏み出すのを応援しています。

未来を創る「超DS宣言～自分を超えろ!」では、果敢に挑戦する企業や団体、人々を紹介し、

75th 65th 開局一九五二年

超DS

創刊一九四一年 静岡新聞 SBS

静岡県立大学

開学30周年を機に 地域との協働強化

学長

インタビュー

静岡県立大学
鬼頭 宏 学長



鬼頭 宏 氏 1971年慶応義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了、専攻は経済学、歴史人口学、上智大経済学部教授、同大地球環境研究所長などを経て、2015年4月から現職。長泉町出身。

静岡薬科大と静岡女子大を統合し、静岡県立大が誕生して来年4月で30年。地域に根差す総合大学として地域と共に、地域のために貢献する若者の育成に努め、約2万人の卒業生を輩出してきた。30年の歴史を踏まえ、これからは県立大がさらに飛躍するために果たす役割や将来像などについて鬼頭学長と学生二人に聞いた。

伝統受け継ぎ、新たな魅力創出

静岡県の人口減少には歯止めがかからず、県内の高校生は地元進学率は3割程度と低くなっています。若者の県外流出が続く中で、県立大学の学部学生のうち3分の2は県内出身者(2016年5月現在)です。その強みはどのようなところにあるとお考えでしょうか。

鬼頭 一つは静岡県がサポートする大学であり、信頼度が高い点です。それに薬学、食品栄養学の研究力が高く、看護学部とともに資格取得も可能です。また、地元企業を指す学生には経営情報学部、世界へ飛び出そうという学生には県外にも名前が通っている国際関係学部も魅力的です。先輩諸氏が築いてくれた伝統をアピールしながら

担っています。また、全国から若者を集め、送り出して行く中で一部が静岡にとどまり、地域貢献してもらい、重要な役割を担っています。特色ある取り組みとしては古代エジプトの学問・教育・文化・芸術の総合施設「ムセオ・オン」にちなんで「ムセオ・オン静岡」があります。

学共通的22科目を設け、卒業までに2単位を必修としています。中でも「茶学」は全国的にも特色があり、将来的にはさらに幅広く多角的なお茶の知識を学ぶ茶学コースの創設も検討しています。また、「静岡の防災と医療」は自助と共助とどんな貢献ができるかを考えるという

がらしつかりと受け継いで、さらに新しい魅力を創りだしていくのがわれわれの使命だと思っています。

鬼頭学長が掲げる大学のミッションは「地域をつくる、未来をつくる」だそうですが、ローカルかつグローバルな大学として独自の取り組みや特徴的なカリキュラムはどんなものがありますか。

鬼頭 国立大学は文部科学省の提唱する「三つの枠組み」で「地域」「特色」「世界」のいずれかの方向性を選ぶことになりました。県立大学は地域の人材育成が最大のミッションで、若者の県外流出を防ぐための役割を

本学と県立美術館、県立中央図書館、グランシップ、県舞台芸術センター(SPAC)、県埋蔵文化財センターの6機関が連携し、自由に学び、交流する文化の発信地づくりを進めています。

文科省の平成26年度「地」の拠点整備事業の採択大学となり、5年にわたる補助金を受けていますが、地域、産業、企業との関わりや地方再生の核となるための取り組みについて具体的などのようなことをなさっていますか。

鬼頭 静岡に特化した文化や産業などを学ぶ「しずおか学」があり、全文化や産業などを学ぶ「しずおか学」があり、全

静岡ならではの科目です。また、県などと提携し、静岡市、牧之原市にはサテライトオフィスを開設し、職員を派遣して地元と議論を重ねているほか、伊豆半島でも教員らが観光客の実態調査に取り組んでいます。学生たちも放浪竹林の手入れや商店街のイベント、地域の祭りなどをお手伝いしながら地域密着の活動を展開しています。

鬼頭 グローバルに活躍する人材の育成を目指し、概ね30ぐらいの海外大学と協定を結び、共同研究や学術交流、交換留学

鬼頭 大きな節目に立ち会えるのは光栄ですが、責任の大きさも感じています。これまでの30年は大学として順調に育ってきたと思いますが、これからはそれが続くとは限りません。全国の18歳人口は現在約120万人で2047年には約74万人に減少し、県内も3万5000人から2万人ぐらいいま落ち込むと推計されています。県内大学の定員割れはほぼ確実に、今以上に特色ある大学にしていかなければなりません。ただ、大学同士が単なるライバルではなく、互いに補完し合い、それぞれの持ち味を伸ばしながら県の高専教育のさらなる充実を図っていくべきだと考えます。ここ静岡市の草薙地区でも県立美術館や常葉大、静岡サレジオ校などと連携しながら、文教のまちづくり



赤レンガのキャンパスに憧れ

国際関係学部国際言語文化学科3年
米澤 美侑さん

一学生生活の中心となるキャンパスの魅力は何ですか。

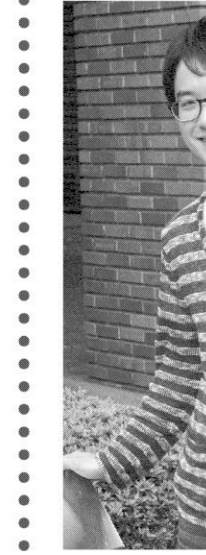
米澤 静岡市内出身ですが、大学が街中にならぬので、緑豊かな環境の中で落ち着いて勉強できるのがうれしい。広さもコンパクトだから違う学部の学生とも友達になりやすいと思います。赤レンガの建物の雰囲気にも高校生のころから憧れていました。

各地から集まってくる、京都出身の自分を含め半数以上が県外出身者なのでさまざまな方言が飛び交っているのが楽しいですね。ボランティアサークルもたくさんあって自分は静岡学習支援ネットワーク(SSS)というサークルに所属して活動しています。気軽に参加でき、4年近く楽しく続けることができました。

佐藤 ほとんどが薬剤師志望で国家試験を目標に頑張っている学生です。皆、熱心で真面目ですよ。同じ学年の120人とは全員顔見知りで、アットホームな感じがとてもいいですね。

学生インタビュー

佐藤 薬学部の学生は全国県立大で学んで良かったと



学部同学年の全学生と顔見知り

薬学部薬科学科4年
佐藤 友亮さん

1、2年生のころ教授があれこれ相談に乗ってくれるアドバイザー制度もあり、教授のそばにいる学部の先輩と知り合う機会があって、そういう先輩からいろいろな体験談を聞くことがとても役に立ちました。

米澤 県外から大学に通っている多くの友人から「いずれは静岡で就職したい」という話を聞いた時、自分の勉強したこと、静岡で勉強できて本当に良かったと感じました。私も韓国に関わる仕事が静岡にあったら、地元で就職したいと思っています。

佐藤 将来は大学院へ進み、今指導を受けている眞鍋敬教授のような研究者になりたいと考えていますが、サークルで培った地域での問題を見つけてそれを皆で話し合っ解決する能力を薬の研究にも役立てたいと思っています。

静岡県立大学

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

30th

創立30周年記念式典・記念講演
平成28年11月8日(火) 14時40分～17時まで
【場所】 静岡県立大学大講堂
【講師】 猪木武徳(いのき たけのり) 大阪大学名誉教授
【講演テーマ】 産業化社会と大学の未来
【応募】 10月2日(日)から10月19日(水)まで(定員100名程度抽選)受け付けます。
はがき、E-MAIL(30kinen@u-shizuoka-ken.ac.jp)に住所、氏名、電話番号を明記の上、申し込みにください。

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1
静岡県立大学広報・企画室 TEL:054-264-5103
(問合せ:土・日・祝日除く。)
下記サイトの申込みフォームからも申込みできます。
http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/outline/30anniversary/004/index.html
抽選結果につきましては、はがきに御連絡いたします。

10年後の静岡を創る
スーパーセミナー
平成28年12月から開催
内容、応募方法等詳細については、決定次第、下記大学サイトでお知らせします。
http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp